

ウルク・ワールド・システム ーインダス文明の視点からー

小磯 学

The Uruk World System :
A Review from the Indus Civilization

Manabu KOISO

「ウルク・ワールド・システム」の原点でもあるI. ウォーラステインの *The Modern World System* (1974) が刊行された折、インダス文明 (前2600~1800年頃) の成立過程をこの理論で説明する試みがP. コールによってなされた (Kohl 1987)。これは「中心と周縁」という立場から、アフガニスタン北部アマダリヤ河岸に位置するショルトガイ (Shortughai) (Francfort 1989) をラピスラズリなどの原材入手を目的としたインダス文明の植民基地 (政治的拡張・搾取の対象) とする可能性を指摘したものであった。ほとんどのインダス文明の遺跡がインダス平原とその周辺に集中しているのに対し、ショルトガイは2.3haという小規模の遺跡ながら最寄の遺跡から800kmも離れ、ヒンドークシュ山脈を越えた隔離した土地にある。しかし土器を中心とする出土遺物は、その在地文化の影響を受けずインダス文明固有の特徴を有していた。

しかし一方でコールは、インダス文明が栄えた前3千年紀後半から前2千年紀初頭という時代と地域に、ウォーラステインが近現代社会をモデルとした政治的経済的な「中心と周縁」の構図を当てはめることに疑問を呈している。すなわち、アフガニスタン北部からトルクメニスタン南部にかけての当時はナマズカ (Namazga) V期に代表される「ナマズカ文明」が隆盛し、この土地もまたインダス文明と同様に経済的な「中心」であったからである。さらには、やはりインダス文明との関連が指摘されるアラビア海を隔てたオマーンやアラブ首長国連邦のマイサル (Maysar) やバート (Bat)、ヒーリー (Hili) などには独自の墓葬や銅の採掘などで知られる「ウム・アン・ナール (Umm an-Nar) 文明」が展開しており、この土地もまた「中心」といえる。したがってインダス文明の周縁部には経済活動上の核となる地域が共存しており、世界システム的な「中心と周縁」の関係は成り立たないのではないかという。むしろ交易を主体としたいくつかの「中心」相互の直接的あるいは間接的関係の上に、当時の経済的活動が成り立っていたとする。そこに搾取者・被搾取者の関係を認めるのは困難である。前述のショルトガイにしても、遺跡の存在が政治的な拡張を裏づけるものであるにしても、それがただちに土着の文化の搾取と結びつくわけではない。インダス文明なりの実情を把握する必要がある。

そもそもインダス文明を「中心」ととらえた場合、その成立のプロセスや政治的経済的な運営・管理の実態については今なお推測の域を出ない (Shaffer 1992; Possehl and Rissman 1992; Kenoyer 1998)。とりあえずは、68万~80万 km²にも及ぶ文明の広がりを遺跡の分布や交易活動などに基づいて各々の「ドメイン (domain)」に分割し、それぞれ個別に詳細な分析を促す視点が提示されてもいる (Possehl 1997) (図1)。またハラッパー (Harappa) やドーラーヴィラー (Dholavira) などでは最新のデータに基づき文明の盛衰のプロセスが新たに検証されつつあり (Bisht 2000; Kenoyer and Meadow 2000)、まずはこうした「中心」に関するさらなる実態の解明が急務といえるであろう。

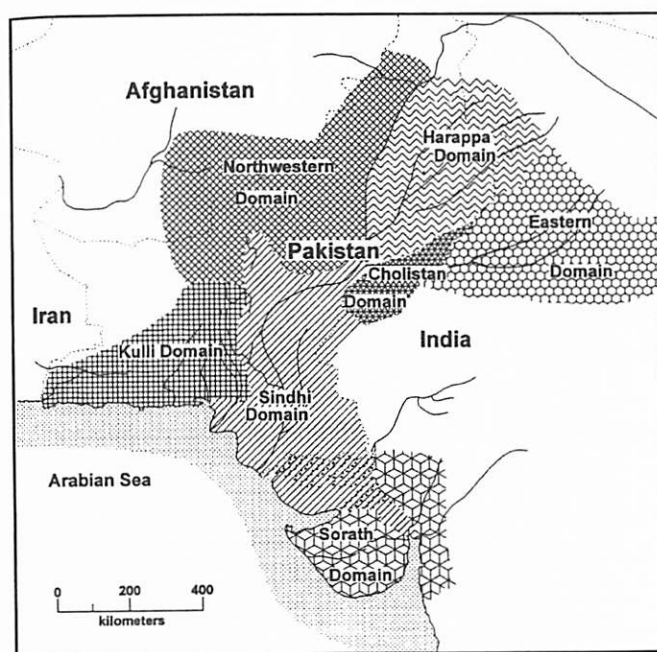


図1 インダス文明の各ドメイン (Possehl 1997)

引用・参考文献

Bisht, R.S. 2000 Urban Planning at Dholavira : A Harappan City. In J.M. Malville and L.M. Gujral (eds.), *Ancient, Sacred Skies - Cosmic Geometries and City Planning in Ancient India*, 11-23. New Delhi, Indira Gandhi National Centre for the Arts and Aryan Books International.

- Francfort, H.-P. (ed.) 1989 *Fouilles de Shortughai-Recherches sur L'Asie Centrale Protohistorique*, 2 Vols. Paris, Diffusion de Boccard.
- Kenoyer, J.M. 1998 *Ancient Cities of the Indus Valley Civilization*. Karachi, Oxford University Press.
- Kenoyer, J.M. and R.H. Meadow 2000 The Ravi Phase: A New Cultural Manifestation at Harappa. In M. Taddei and G.de Marco (eds.), *South Asian Archaeology 1997*, 2 Vols., 55-76. Rome, Istituto Italiano per L'Africa e L'Oriente.
- Kohl, P. 1987 The Ancient Economy, Transferable Techniques and the Bronze Age World-System. In M. Rowlands, M. Larsen and K. Kristiansen (eds.), *Centre and Periphery in the Ancient World*, 13-24. Cambridge, Cambridge University Press.
- Possehl, G.L. 1997 The Transformation of the Indus Civilization. *Journal of World Prehistory* 11/4: 425-472.
- Possehl, G.L. and P.C. Rissman 1992 India. In R.W. Ehrich (ed.), *Chronologies in Old World Archaeology*, 3rd ed., Vol. I, 465-490; Vol. II, 447-474. Chicago and London, University of Chicago Press.
- Shaffer, J.G. 1992 Indus Valley, Baluchistan and the Helmand. In R. W. Ehrich (ed.), *Chronologies in Old World Archaeology*, 3rd ed., Vol. I, 441-464; Vol. II, 425-446. Chicago and London, University of Chicago Press.

東海大学文学部
Tokai University